

# 安全データシート

初回作成日 2010/04/13

改訂日 2025/03/14

## 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	レッドコートRG 専用用骨材
会社名	レッドコーティングス株式会社
住所	愛知県名古屋市中川区中郷2-52
電話番号	052-351-4666
緊急連絡電話番号	052-351-4666
FAX番号	052-351-4612
推奨用途及び使用上の制限	土木、建築材料

## 2. 危険有害性の要約 GHS分類

物理化学的危険性	分類対象外または区分外
健康に対する有害性	皮膚腐食性／刺激性 分類できない 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 分類できない 呼吸器感作性 分類できない 皮膚感作性 分類できない 生殖毒性 区分外 発がん性 区分 1 A 特定標的臓器毒性（単回暴露） 区分 1（呼吸器系） 特定標的臓器毒性（反復暴露） 区分 1（呼吸器、腎臓、肺）
環境に対する有害性	水生環境急性有害性 分類できない 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHS ラベル要素 シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

発がんのおそれ  
吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそ

	れ 呼吸器系への障害 長期又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓の障害 長期又は反復ばく露（吸入）による肺の障害
注意書き 安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 個人用保護具や換気装置を使用し、暴露を避けること。 粉塵、ヒュームを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 取扱い後はよく眼を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
救急措置	ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
保管	特別に技術的対策は必要としない。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	官報公示整理番号		CAS番号	備考
		化審法	安衛法		
二酸化珪素	75～85	登録済	—	登録済	労安法57条の2
炭酸カルシウム	15～25	登録済	—	登録済	
酸化アルミニウム	0～1	登録済	—	登録済	労安法57条の2
酸化鉄	0～1	登録済	—	登録済	労安法57条の2
珪酸マグネシウム水和物	0～1	登録済	—	登録済	労安法57条の2

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

労働安全衛生法

名称を表示すべき危険物及び有害物（法第57条）、名称等を

二酸化珪素（政令番号：9-312）  
酸化アルミニウム（政令番号：9-

通知 すべき危険物及び有害物  
(法第57条の2、施行令第1  
8条の2別表第9)

189) 酸化鉄(政令番号9-  
192)(1%未満非該当)過酸化ベン  
ゾイル(政令番号：9-282)

#### 4. 応急措置 吸入した場合

呼吸していて嘔吐がある場合は飲み込ませないように頭を横向きにする。

呼吸が停止している場合は人工呼吸を行う。

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

痛みや炎症が認められたときは速やかに医師の手当てを受ける。

目に入った場合

直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。

瞼の裏まで完全に洗浄する。

眼球を傷つける可能性があるのでこすらない。

医師の手当、診断を受けること。

飲み込んだ場合

嘔吐が自然に生じたときは、気道への吸入が起きないように頭を横向きにする。

意識がある場合、水でよく口の中を洗浄する。

医師の手当、診断を受けること。

応急措置をする者の保護

救助者が有害物に触れないようゴム手袋、保護眼鏡などの保護具を着用する。

汚染された衣類や保護具を取り除く。

#### 5. 火災時の措置

消火剤

この製品自体は燃焼しない。

周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。

特有の危険有害性

加熱により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法

周辺火災の場合、移動可能な梱包袋等容器は速やかに安全な場所に移す。

消火を行う者の保護

消火を行う者は、自給式呼吸器具を含めて完全な防護服を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

<p>人体に対する注意事項、 保護具および緊急措置</p>	<p>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 漏出した場所の周辺にはロープを張る等して関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は保護具（8 曝露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触、吸入を避ける。</p>
<p>環境に対する注意事項</p>	<p>河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 万一、河川等に流出した場合は、直ちに関係当局へ報告する。</p>
<p>回収・中和 封じ込め及び浄化方法・機材</p>	<p>漏出物を掃き集め空容器に回収する。 危険でなければ漏出源を遮断し、漏出/流出を防止する。</p>
<p>二次災害の防止策</p>	<p>全ての発火源を速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火剤を準備する。 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。</p>

## 7. 取扱い及び保管上の注意

<p>取扱い 技術的対策</p>	<p>「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p>
<p>局所排気・全体換気</p>	<p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。</p>
<p>安全取扱い注意事項</p>	<p>使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 皮膚と接触しないこと。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 眼との接触を避けること。 飲み込みを避けること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。</p>
<p>保管 技術的対策 保管条件</p>	<p>特別に技術的対策は必要としない。 冷所に保管し、日光を遮断すること。 子供の手の届かないように保管する。 湿気を避け雨等の当たらない屋内倉庫に保管する。</p>
<p>容器包装材料</p>	<p>データなし。</p>

## 8. 曝露防止及び保護措置

管理濃度 許容濃度	A C G I H (TLV-TWA)  日本産業衛生学会	0.05mg/m <sup>3</sup> (シリカ (二酸化珪素)) 10mg/m <sup>3</sup> (炭酸カルシウム) 10mg/m <sup>3</sup> (酸化アルミニウム) 10mg/m <sup>3</sup> (酸化チタン) 4mg/ m <sup>3</sup> (総粉塵)(シリカ(二酸化珪素)) 2mg/ m <sup>3</sup> (総粉塵)(酸化チタン)
設備対策		この物質を取扱う作業場には洗眼器、安全シャワー、手洗いを設置し、その位置を明瞭に表示すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置する。
保護具	呼吸器の保護具  手の保護具  眼の保護具  皮膚及び身体の保護具	適切な呼吸器保護具（防塵マスク等）を着用すること。また、樹脂と共に扱う場合には防毒マスクを着用すること。 適切な保護手袋（ゴム手袋、耐油性、耐溶剤性等）を着用すること。 物質を加温するときは、熱傷を防止する手袋を着用すること。  保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）  適切な保護衣、顔面用の保護具を着用すること。
衛生対策		取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	形状 色	粒径0.3～2.5mmの砂状の固体粉末 灰色
融点		知見無し
沸点、蒸気圧		知見無し
引火点		なし
発火点		なし
分解温度		825°Cで分解して二酸化炭素を放出し、酸化カルシウムとなる

(炭酸カルシウム)

爆発限界  
化学的性質

上限、下限ともに知見無し  
水に不溶  
酸・アルカリにはほとんど溶解しない。

## 10. 安定性及び反応性

安定性  
反応性  
  
自己反応性・爆発性  
粉塵爆発性

通常 of 取扱い条件(常温)では安定。  
強酸と反応して、二酸化炭素を発生する  
(炭酸カルシウム)  
知見無し  
知見無し

## 11. 有害性情報

急性毒性  
慢性毒性  
皮膚腐食性／刺激性

情報なし  
長期の粉塵吸引により呼吸器系疾患になる危険性有り。  
長時間付着すると肌荒れを起こすことがある(炭酸カルシウム)  
ヒトの眼に腐食性がある。重篤な目の損傷 区分1(酸化鉄)  
ウサギを用いた試験で軽度の刺激性(mild irritation)との結果  
(IUCLID(2000))より区分2Bとした。なお、適用5分後に洗浄した  
別の試験では刺激性なし(not irritating)の結果(IUCLID)(2000))が  
得られている(酸化チタン)

感作性  
がん原性

知見無し  
IARC68(1997)は1、NTPはK、産衛学会勧告は1に分類しており、  
区分1Aとした(発がんのおそれ)。ICRC グループ1 (人に  
対して発がん性がある)。(二酸化珪素)

変異原性

in vivo変異原性のマウスの骨髄小核試験が陰性(23).7).20)であった  
事から、区分外とした。なお、OECDガイドラインにはない特殊  
なin vivo試験系(気管内投与されたラットの肺上皮細胞における  
hprt異変の測定)において突然変異陽性を示す(炎症作用による可  
能性あり)など、「試験結果が相反しており、遺伝毒性の評価はまだ  
確定していない」とされている。また、in vivo変異原性におい  
ては、Ames試験のデータはなく、染色体異常試験で陰性、小核試  
験で陽性の知見がある。(二酸化珪素)

生殖毒性  
特定標的臓器毒性(単回暴露)

知見無し  
反復暴露に比べるとデータが大幅に少ないが、ヒトにおいて短期  
暴露でも吸入濃度が高い場合は呼吸器系に影響を及ぼすとの記述  
がある。IARCはPriority1文書であるため、区分1(呼吸器系)と

した（呼吸器系の障害）。（二酸化珪素）  
上気道刺激性（ICSC（2000）の記載より、区分3（気道刺激性）  
（酸化アルミニウム）

特定標的臓器毒性（反復暴露） Priority1文書にヒトにおいて呼吸器系、腎臓に影響を及ぼすとの  
記述があり、区分1（呼吸器系、腎臓）とした。長期又は反復暴露  
による呼吸器系、腎臓の障害。（二酸化珪素）  
酸化アルミニウムの職業暴露により、肺に線維症が認められた  
（EHC（1999））との記載により、区分1（酸化アルミニウム）

## 1.2. 環境影響情報

環境に対する有害性	知見無し
生態毒性	知見無し

## 1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 家庭用廃棄物、ごみ又は他の固形廃棄物と一緒に廃棄しないこと。  
廃棄物の処理は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。  
該当法規に従って処理すること。

## 1.4. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	該当しない
	航空規制情報	該当しない
	UNNo.	該当しない
国内規制	陸上規制情報	該当しない
	海上規制情報	該当しない
	航空規制情報	該当しない

特別安全対策 移送時にイエローカードの保持が必要。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。重量物を上積みしない。

## 1.5. 適用法令

労働安全衛生法	名称を表示すべき危険物及び有害物(法第57条) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2)
---------	---

リスクアセスメント実施義務対象物質(二酸化珪素、酸化アルミニウム、酸化鉄、酸化チタン、過酸化ベンゾイル)

粉じん障害防止法規則別表2 (二酸化珪素)

じん肺法	第2条施行規則第2条別表 粉じん作業(二酸化珪素)
化学物質排出把握管理促進法 (改正 P R T R 法)	該当無し
消防法	該当無し
港則法	・施行規則第12条 危険物 有機過酸化物(過酸化ベンゾイル) 施行規則194条の5 有機過酸化物(輸送禁止)(過酸化ベンゾイル)
航空法	輸送禁止(使用済みのもの)(酸化鉄)
水質汚濁防止法	
生活環境項目 (施行令第3条第1項) 指定物質 (施行令第3条第3項)	浮遊物質 (酸化アルミニウム)  「アルミニウム及びその化合物」(酸化アルミニウム)
輸出簡易管理令	別表第1、16項キャッチオール規制第28類無機化学品 HSコード (輸出統計品目番号、2012年4月版) 2818.20000 「酸化アルミニウム (人造コランダムを除く)」(酸化アルミニウム) 2825.90.900 「金属酸化物、その他のもの、3その他のもの」

## 16. その他の情報

連絡先	記載内容の問合せ先：レッドコーティングス株式会社 TEL：052-351-4666
参考文献	使用原料のSDS(M S D S)等
その他	記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて製作しており、新しい知見により改定されることがあります。また、注意事項は通常取り扱いを対象としたものであって、必要で安全な取扱いを決定するには、使用者がその責任においてこの情報の利用をご決定下さい。

記載内容は情報提供であって保障するものではありません。